

会議録（要旨）

件名	令和元年度 第1回亀岡市行政改革推進委員会		
日時	令和元年5月23日（木）		
	午前10時～正午	場所	市役所6階 602・603会議室
出席委員	14名：足立潤哉／石田数美／大嶋雅子／格畑輝美／木藤伸一朗／木村好孝／串崎哲史／坂口武男／坂本信雄／佐藤裕見子／高橋昭人／中村昌博／松尾和美／森下明美		
欠席委員	1名：木戸庸介		
事務局出席者	6名：企画管理部長／企画管理部地方創生担当部長／企画調整課長 他		
傍聴者数	1名		
次第	1 開会 2 議事 （1）行財政改革に関するアンケート調査結果について （2）次期行財政改革大綱について 3 その他 （1）今後のスケジュールについて 4 閉会		

1 開会

只今より令和元年度第1回亀岡市行政改革推進委員会を開催する。

本日、木戸委員については欠席の連絡をいただいている。過半数以上の出席をいただいているので本委員会は成立している旨、御報告申し上げます。

会長挨拶

今年度に現大綱の最終年度を迎える。通常よりも委員会の会議回数が増えるが御協力をお願いする。本日は次期大綱について審議する。

事務局

新しい委員の紹介をさせていただく。亀岡子育てネットワークの多胡委員が退任されたので、新たに石田委員に御参画いただくこととなった。

委員

よろしく願います。

2 議 事

(1) 行財政改革に関するアンケート調査結果について

資料 1、2

事務局 ≪資料に沿って事務局から説明≫

A 委員

委員及び職員アンケートの回答者数はどのくらいか。

事務局

委員アンケートは、13名から回答をいただいた。職員アンケートは、261名から回答があり、回答率40.7%である。

B 委員

アンケート内容が同じ項目かどうかのチェックが必要となるが、今回のアンケートと現大綱を策定した5年前のアンケート結果の数値と比較して、結果がどのように変化したのか。また、職員アンケート結果は、役職等によるクロス分析ができるのではないかと。

本日議論するかもしれないが、アンケート結果を受けて、どのように扱っていくのか、どのような方向性を出すのかを議論していく必要がある。

事務局

5年前のアンケートと今回のアンケートの項目が違うため、比較はできない。

担当する業務において業務改善できる業務があるかどうかについてのクロス分析を行ったが、役職による違いは見受けられなかった。

C 委員

職員アンケートでは、重点を置いた行財政改革を実施すべきであるかとの質問に対して、「事業の見直し」という回答が最も多くなっている。これまでの事業や現状の事業はどうなっているのかが気になった。

D 委員

行財政改革に関する職員アンケート以外で、職員アンケートを行っているのか。

事務局

現在、行財政改革に関する職員アンケート以外での職員アンケートは行っていない。

E 委員

職員アンケートで「どちらかと言えばそう思う」や「どちらかと言えばそう思わない」と

いう回答は、どちらかというとは分からないということではないか。

また、行財政改革の取り組みへの認知度については、「知らない」という回答が3割あるが、担当課としてはこの結果をどう考えているのか。

事務局

行財政改革の取り組みを「知らない」と回答した職員は、経験年数が10年以下の職員が多かった。行財政改革の取り組みについては、庁内での周知が必要であると考えている。

F 委員

昨年の災害で、災害復旧への対応（残業）が増えている。今後、職員の事務負担を減らしていくことが重要である。

G 委員

職員アンケートで、市民の声は市政に反映されているかという質問に対して、約31%の方がそう思わないと答えている。見直しをしていかなければならない。

会長

今年度末で現大綱の計画期間が終了する。次期大綱をどのような形で作るのか。この委員会のあり方や行革のあり方についてこれから審議いただきたい。

(2) 次期行財政改革大綱について

資料3

事務局 <資料に沿って事務局から説明>

A 委員

今までのやり方でいいと思う。3つの柱もこれまでの柱で良い。

H 委員

職員アンケート結果の自由記述で回答のあった部分をもっと深めて考えていかなければならない。市役所のどの部署がどのような業務を行っているのか、どのような課題を持っているのかをもっと知っていかなければならないと思った。

D 委員

項目がありすぎてどこを見たらいいのかが分かりにくい。行財政改革という言葉を知らない方が多く、取り組みが何パーセント達成できたかという結果も大事だが、例えば、行財政改革のキャンペーン期間を設けて、窓口でキャンペーンしていることを分かりやすく出す等、

行財政改革に取り組んでいることを市民の皆さんに周知できたらと思う。

会長

従来、行財政改革ができたときには、民間委託を行い公的な部分を軽くし、民間の知恵を活用することが重点となっていた。今は、自治体の AI の活用や窓口業務の ICT 化の改善等に重点が移ってきている。今回の職員アンケートからも分かるが、事務事業の点検や会議の効率化、市職員の中での業務の公平な負担や軽減化等がアンケート結果で挙がっている。

改革の目標や3つの柱、推進項目も含めて御意見、御提案をいただきたい。

B 委員

改革の目標で、「持続可能な」はいつの時代でも使える言葉である。今後、人口減少が続くことは間違いない。「人口減少下の行財政運営」はどうだろうか。市民に対しての呼びかけの言葉となるので、キーワードの選び方を考えるべきだと思う。

全ての取組項目を一度に実施するのではなく、やり方を見直して、四半期ごとであったり、月ごとであったり、テーマ別に重点期間を設けて取り組んでいくのがいいのではないかな。

当委員会を含めて、市民参加型の委員会が役割を果たしているのかの問いかけをする項目や人材育成（女性登用）等をもっと表に出してもいいのではないかな。

A 委員

推進項目に、市民に向けての項目を入れた方がいい。

I 委員

職員数の適正化が重要。窓口で、すぐに対応してもらえるように職員の方に気を付けていただきたい。

会長

改革目標については、今、亀岡の行革で何が重要かを打ち出すことが大切である。

E 委員

「持続可能な行財政運営の推進」は、目標というよりも取組手段のような印象を受ける。職員一人ひとりが行財政改革について自覚していくためにどのような課題があるのか、またどのようなプロセスが必要となるのかが視点となるのではないかな。 x c

また、亀岡が今後も安定的に発展することと、市民が安心して生活ができることを目標に置き、そのために、組織の最適化等について議論していくことが必要だと思う。

意欲をもっている職員もいる。市の職員の資質をどのように高めていくかということ、またどのように活用していくかを検討していく必要がある。

A 委員

亀岡市は企業が少ない。企業誘致により人口が増え、まちも活性化していくのではないかと。

J 委員

まずは次期大綱を現大綱のような形にするのか、方向性を決めてはどうか。基本的な考え方や改革目標、推進項目に分けながら当委員会で議論を進めていくのが良いのではないかと。

会長

従来通り、大綱と実施計画を策定することで良いかどうか。

E 委員

基本認識として、大綱は誰に対してのものか。行財政改革大綱の担い手は誰なのか。私は、担い手は市職員だと理解している。

B 委員

市民サービスを今後も持続するためにどうするのが基本となる。推進する立場にあるのが職員である。市民にこれで良いのかと問いかけるものが大綱である。

D 委員

市民に周知することが大切。市民に分かりやすい言葉にしてもらいたい。

会長

市民がこれから豊かに生活するための亀岡全体の行財政改革を掲げることになる。皆さんから言葉を御提案いただきたい。

大綱の計画期間は5年とし、同大綱に基づく実施計画は1年毎に策定することで了承いただけるか。

《委員了承》

会長

改革の目標について、意見があれば発言いただきたい。

F 委員

当委員会で大綱の概要版を発行して、市民にお知らせしてもいいのではないかと。また、進捗管理をする中で、可能であれば職員からヒアリングができればと思う。

C 委員

現大綱の9つの推進項目に、行政サービスの推進があるが、行政サービスの本質は何なのか。また市政への市民参画の推進が推進項目にあるが、高齢化が進んでいく中で、従来通り市政への市民参画を推進していけるものなのか。

B 委員

行政サービスは、受益と負担の関係である。住民が減っていく中で、今あるサービスがこれからも受けられるかどうか。人口減少社会の中で行財政改革をどうすべきかを住民に問いかけていき、市民と職員が共通認識を持つことが必要である。

J 委員

現大綱の改革の目標は、持続可能な行財政運営の推進であるが言葉が固い。市民に分かりやすくするため、副題を付けてはどうか。

K 委員

「持続可能な」という言葉がつくと、何が持続可能なのかと思う。子育て世代の方にも分かりやすい言葉が良い。

I 委員

「サービス」という言葉があるが、市民から見るとサービスには有償と無償があるので、その辺りをはっきりしてほしい。

A 委員

これまで取り組んできたことを持続していくことから、改革の目標は現状のままでいいと思う。

会長

先ほど意見があったように、副題をつけることもできる。行政サービスについては、民間委託や指定管理者制度、窓口業務の改革等、狭い意味での行政改革は当然あり、その上で、行政サービスの有償、無償も含めて、どのような維持ができて、どのような見直しができるのかを実施計画で見られるような計画にすることが今後の目標だと思う。

J 委員

行財政改革というと削減していくイメージがある。またサービスというと負担が伴う。負担があるという前提のもとに、行政の事業が成り立っている。

目標の立て方はいろいろあるが、推進項目の取り組みを当委員会で見直し、審査していければと思う。

B 委員

改革の目標は、「人口減少化・少子高齢化のもとでの行財政運営」としてはどうか。

副会長

これから人口が減少していく中で、財政運営は厳しくなる。人口減少社会における持続可能な行財政運営という目標は良いが、大綱には総合計画を下支えする面がある。人口減少社会の中で、どのような亀岡市を目指していくのかを市民も職員も共有していくことが重要である。現大綱の柱に「市民参加による行政運営の推進」とあるが、市民参加には、いろいろな事業や取り組みを市民と一緒に参加することが含まれている。人口減少社会で目指すところは、市民も職員も安心して暮らせる地域にするということであるため、副題として「市民が安心して暮らせる亀岡市づくりに向けて」としてはどうか。

J 委員

人口減少という言葉は、暗いイメージがする。これから頑張って亀岡を盛り上げていこうという意味で、明るいイメージを含めてもいいのではないか。

B 委員

明るいイメージは、これから策定する実施計画に反映した方が良い。

F 委員

「チャレンジ」という言葉を使ってはどうか。

B 委員

チャレンジという言葉は、総合計画に盛り込む内容である。

A 委員

人口減少化は亀岡市に関わらず全国でも該当する言葉である。明るい言葉が良い。

C 委員

健康という言葉はどうか。

L 委員

市民を含んだ目標を立ててほしい。

B 委員

「次世代に向けた行財政運営の推進」が良いのではないか。

L 委員

高齢化社会が進む中で、次世代ということを打ち出さないといけないのか。次世代だけを対象としていると思われないか。

会長

次世代とは、これからの次の世代に向けてという意味である。

事務局

今後と将来、持続可能であることを含めて「未来につなぐ行財政運営の推進」はどうか。

B 委員

未来は遠くないか。

事務局

提案いただいた御意見の中で、その主旨を踏まえて、事務局でも文言を考えさせていただき、委員の皆さまからもメール等で御提案いただき、次回の委員会で候補を出しながら最終案を絞っていきたい。

会長

それでは、次に推進項目について御提案をいただきたい。

F 委員

市民参画や市民との協働の項目が入ってない。

A 委員

現大綱の9つの推進項目のうち、情報公開の推進と市政サービスの推進、市政への市民参画の推進を含めてはどうか。

F 委員

民間委託ではなく、行政サービスの推進としてはどうか。

L 委員

提案いただいている推進項目の中で、「人材育成と執行体制の適正化」は分かりにくい。

会長

執行体制はどのようなことを意味しているのか。

事務局

執行体制は、組織・機構や事務の運営を対象としている。

E 委員

取り組みのプロセスが大事。推進項目を減らすか増やすかを議論する前に、今、亀岡市の行財政改革の中で何が必要なのか。これまでの取組成果、課題は何かを明らかにした上で、次期大綱で重視していくことにたどり着けるようにしたい。

柱としては、1つ目に、組織を運営上一番いい形にもっていくためにはどのようなことが必要なのか。2つ目には、安定的な市民サービスを図っていくために財政基盤をどのように維持していくか。3つ目に、市民サービスのためにどのようなことが必要か、大きくはこの3つの柱があって、それぞれに個別の取り組みがあるのだと思う。

会長

財政基盤の確立や事務事業の適正化、そして市民との協働や市民参加のあり方、もう一つは行革の点検体制。これらをどのようにチェックするのかということ自体を目標に掲げるべきだと思う。

F 委員

これまでは事務局から取組結果の報告を受けているが、調書を作成している主管課に委員会に来ていただきヒアリングができればいいと思う。

会長

現大綱の3つの柱を参考にしながら、次期大綱も3つほどの柱を立ててはどうか。これまでの意見からすると、民間委託の推進や公共施設の適正化は独立した推進項目としない方が良いのではと思う。

B 委員

委員アンケートでも記載したが、重点を置いて行財政改革を実施すべきことについては、①財政指数の適正管理及び長期借入金残高、財政調整基金などの管理状況、②働き方改革と女性職員の登用状況 ③民営化・規制緩和の推進状況、④市立小中学校の規模等適正化動向 ⑤主要公共施設の整備点検状況、⑥シェアリング公共サービスの検討状況、⑦各種審議会・委員会の役割の評価、⑧行政評価のあり方だと考えている。

会長

市民のサービスの基盤である施設、道路、河川、橋梁等の維持管理には財源がかかるが、これから行っていかなければならないことである。このようなことも項目に設定できる。

J 委員

「民間委託等の推進」は「業務改善と事務の効率化」に含めることができるのではないかと。

事務局

本日いただいた御意見を事務局でまとめ、次回の委員会前にメールや書面で送付し、御意見をいただきたいと考えている。

会長

今後の委員会の進め方については、委員アンケート結果では全体会と分科会がほぼ同数となったが、分科会をすともう一回全体会を開催する必要があるため、分科会ではなく、全体会で進めていきたい。

3 その他

(1) 今後のスケジュールについて

資料4

事務局 **《資料に沿って事務局から説明》**

4 閉会

以 上